

総務警察委員会記録

開催日時 令和3年8月19日(木) 10:03~10:50

開催場所 第1委員会室

出席委員 8名

奥山 博康 委員長
松本 宗弘 副委員長
山中 益敏 委員
乾 浩之 委員
中野 雅史 委員
山村 幸穂 委員
藤野 良次 委員
山本 進章 委員

欠席委員 なし

出席理事者 湯山 総務部長
舟木 知事公室長
藤井 南部東部振興監
杉中 危機管理監
芝池 会計局長
松村 人事委員長
内野 代表監査委員
島本 公安委員長
大橋 警察本部長 ほか、関係職員

傍聴者 なし

議 事

- (1) 令和3年度主要施策の概要について
- (2) その他

<会議の経過>

○奥山委員長 ただいまの説明、報告、またはその他の事項も含めて質問があればご発言願います。

○山村委員 それでは1点、職員の体制について伺います。

新型コロナウイルス感染者が大変な勢いで増加し、このような形で世界中に蔓延する新たな事態が起こった中、今、社会全体として経済効率最優先あるいは経済成長優先の競争を前提とした社会ではなく、命や暮らし、安全・安心を優先する政治が強く求められているのではないかと感じています。特に自治体に対しては、県民の命を守るという重大な使命が問われているのではないかと感じています。

奈良県でも、他の県でもこれまで行財政改革を進めることで効率的でスリムな行政を追求され、公務員の定数削減がずっと続けられてきました。奈良県でも2005年時点の定数と2020年を比べると2,972人減っている状況です。この結果、医療あるいは公衆衛生、福祉関係などで人員が足りずにコロナ禍で様々な困難が起こっている状況が生まれていると思います。

特に保健所の職員体制、あるいは検査機関の人員不足、福祉の窓口、各種手当での申請業務など大変過重な負担が職員に起こっていて、長時間の過重労働を余儀なくされている職場や職員も生じていると承知しています。このような実態がある中で、県がどのようにその体制について対応されておられるのか、お伺いします。

○中島行政・人材マネジメント課長 県の組織体制について、行政では最少の経費で最大の成果を上げることがを要請されているところです。限られた人員の中で質の良い行政サービスを提供するとともに、所属間での超過勤務の偏在を少なくすることも念頭に置いて、組織や各所属の定員の見直しを毎年行っているところです。

また、働き方改革の取組として、退勤管理の徹底を継続的に行っているところです。そして事務事業の優先順位をつけるなど、管理職のマネジメント力の向上を図ること、そして業務フローの抜本的な見直しを行い、ICTを活用した業務の自動化、効率化など業務管理改善にも取り組んでおり、超過勤務の縮減にも努めているところです。

なお、職員の定員については、本県の行財政改革である『奈良県の力』底上げプログラムにおいて定員管理計画があります。その定員管理計画においては、持続可能な財政運営の維持に留意しつつ、今後の人口減少を見据えたものとして現状の定員を上限としているところです。現下の新型コロナウイルス感染症対策をはじめとして、様々な行政需要の変化があります。その変化に対応するためにも現状の定員を上限としつつ、部局横断的な課題にも対応できる、柔軟で機動的な組織体制を目指し取り組んでいるところです。

○山村委員 定数は増やさないけれども、組織間での調整や優先順位をつけて対応するとお答えいただいたと思います。

また、お答えの中では、経費を少なく、質の良いサービスが提供できるようにと、その考え方そのものはそのとおりだと私も思いますし、できる限り効率的で中身をよくしていただくことが必要だと思うのですけれども、ただ、実態として、例えば保健所の職員体制を見ましても、現実には人が足りない状態が生まれているところもあり、また土木関係においても専門職の方がいないと仕事が進まないということもあります。そういうことから見ましたら、減らし過ぎた人員を確保するために定数そのものの改善も必要ではないのかなと思っています。今後、デジタル化も進められていきますので、ますます公務員の数が減らされる方向に行くのではないかなと心配しているのですが、そうではなく、このコロナ禍で人と人との関係、あるいはケアを大事にする、命を優先する仕事が県にも求められていると感じています。

特に市町村の方々が直接住民の皆さんと関わって直接的なサービスを行われている状況ですけれども、それをサポートして、専門的な力で応援して、うまく住民の皆さんにサービスが行き届くように県としての役割があると思うのですが、それを行っていく上でもやはり県の存在意義と申しますか、仕事の中身での存在意義を、この際、このコロナ禍を通じて見極めていただいて、今後の定数あるいは仕事の重要性等に反映していただきたいと思っています。これは今後検討していただきたいと意見を申し上げたいと思うのですけれども、その点、今後、変わりはないのかとだけお聞きします。

○中島行政・人材マネジメント課長 先ほどの答弁にもありますが、現行の定員については上限を設けている現状です。しかし、各部局間において課題はあります。それも様々な背景があり、背景の変化もあります。その背景の変化に対応すべく、部局横断的に柔軟で機動的な対応は取っていききたいと取り組んでいるところです。今後も引き続き即応できるような体制を整えていきたいと考えています。

○山村委員 分かりました。定員はあまり考えないということだと思えますけれども、それで了解したわけではなく、引き続き求めていきたいと思えます。特に働いている皆さんが本当に一生懸命頑張っている状況で、余裕を持ってもっと県民の皆さんのためになることをしたいと意欲が湧いてくるような職場となるよう、人員の管理が要るのではないかと考えておりますので、その点については今後も議論していきたいと思えます。

○奥山委員長 ほかにございますか。

ほかになければ、これで質問を終わります。

これをもちまして、本日の委員会を終わります。